大円寺所蔵板碑群

［登録年月日］昭和六〇年三月三〇日
［種別］有形文化財（古文書）
［名称］大円寺所蔵板碑群
［点数］一三基
［所有者等］大円寺
［所在地等］和泉三―五二―一八

有形文化財（古文書）

大円寺所蔵板碑群

最も大きなもので六三㎝、最小で三八㎝である。半数ほどが完形品で、欠損や風化もみられるが、全般に保存は良好である。種子はすべて阿弥陀一尊である。

本板碑群は明治末年に現在の高千穂大学敷地（旧大宮八幡宮社地）を整備した折、二基の小円丘（塚）から採集したものと伝えられている。

造立年代は板碑造立の最盛期である南北朝期の延文二年（一三五七）から応永一六年（一四〇九）にかけての約五〇年間に集中している。

しかも、その内の三基は同一年月日を刻しており、「同時多数造立」例としては区内はもとより近隣でも例がなく、年代的にも最古に属するものである。また、八基が同一の様式を持っているのが本板碑群の特色で、これは板碑製作者が同一工人の流派であることをうかがわせるものである。

これに加えて出所がはっきりしており、かつ、鎌倉道伝承に沿う他地点との共通様式をも示す希少な板碑群である。

【文化財所在地】